

特別企画：鳥取県 企業倒産予測値グレード分析(2015 年)

倒産リスクの高い企業の構成比 22.1% ～全国を 6.5 ポイント上回り、高い水準続く～

はじめに

2013 年 3 月に中小企業金融円滑化法（以下、円滑化法）が終了してまもなく 3 年を迎える。円滑化法は、2008 年～2009 年にかけてリーマン・ショックに続く世界同時不況の影響を受けて全国的に企業倒産が急増したため、資金繰りに苦しむ中小企業を金融面から下支えする政策として 2009 年 12 月にスタートした。2010 年以降の倒産企業数は減少傾向が鮮明となり、同法の終了後も金融機関には「貸付条件の変更等や円滑な資金供給に努めること」が求められ、その精神は現在も継続されている。2013 年以降はアベノミクス効果による景気回復が中小企業の倒産抑制につながってきた一面はあるものの、果たして企業の倒産リスクそのものは低下しているのだろうか。

帝国データバンク鳥取支店では、独自の情報と指標をもとに 1 年以内に企業が倒産する確率を算出している「倒産予測値」（定性データのみによって算出した『CCR モデル』30 万 3706 社（2015 年 12 月算出）をベースに、鳥取県に本社を置く企業を対象に『CCR モデル』1083 社のデータを抽出し、時系列での動きや全国との比較・分析を行った。

◆倒産予測値とは

帝国データバンクが保有する企業財務データや信用調査報告書などの定性データを同時に取り込み、1 年以内に企業が倒産する確率の予測値を 0～100%の範囲で算出する個別企業のリスク指標。さらに、算出された倒産予測値（%）に応じて G1～G10 のグレードに区分。統計上、G1 は倒産リスクが最も低く、G10 は倒産リスクが最も高いことを表す。

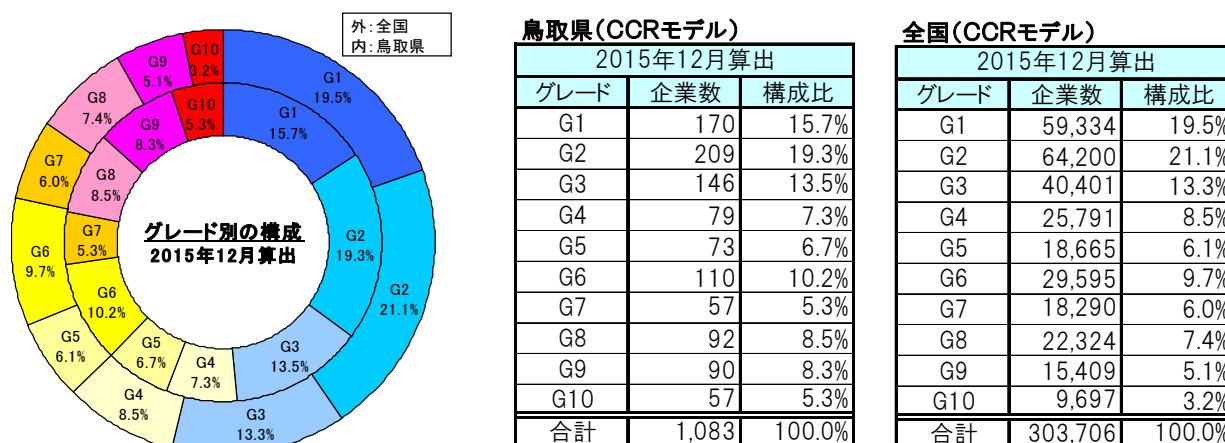
調査結果（要旨）

1. 『鳥取県』に本社を置く企業で、倒産予測値算出可能企業 1083 社のうち、倒産リスクがかなり高いと判断される『G8～G10』ゾーンに分布する企業の構成比は 22.1%（239 社）。2014 年 12 月算出分より 0.1 ポイント上昇し、全国より 6.5 ポイントも高く
2. 中小企業金融円滑化法の施行時（2009 年 12 月時点）との比較では、倒産リスクの高い『G8～G10』ゾーンに分布する企業の構成比は 5.1 ポイントも上昇
3. 『G8～G10』ゾーンに分布する企業の割合を県別にみると、『鳥取県』（構成比 22.1%・239 社）は中国 5 県で 2 番目に高く

1. 倒産予測値グレード別分布：CCR モデルの『G8～G10』ゾーンは 22.1%

2015 年 12 月時点で鳥取県に本社を置く企業の倒産予測値算出可能企業 1083 社のうち、倒産リスクがかなり高いと判断される『G8～G10』ゾーンに分布する企業の構成比は、22.1% (239 社)。『全国』(30 万 3706 社) との比較では、『全国』(15.6%・4 万 7430 社) を 6.5 ポイントも上回った。

一方、倒産リスクがかなり低いと判断される『G1～G3』ゾーンに分布する企業の構成比は、48.5% (525 社) で半数を下回った。

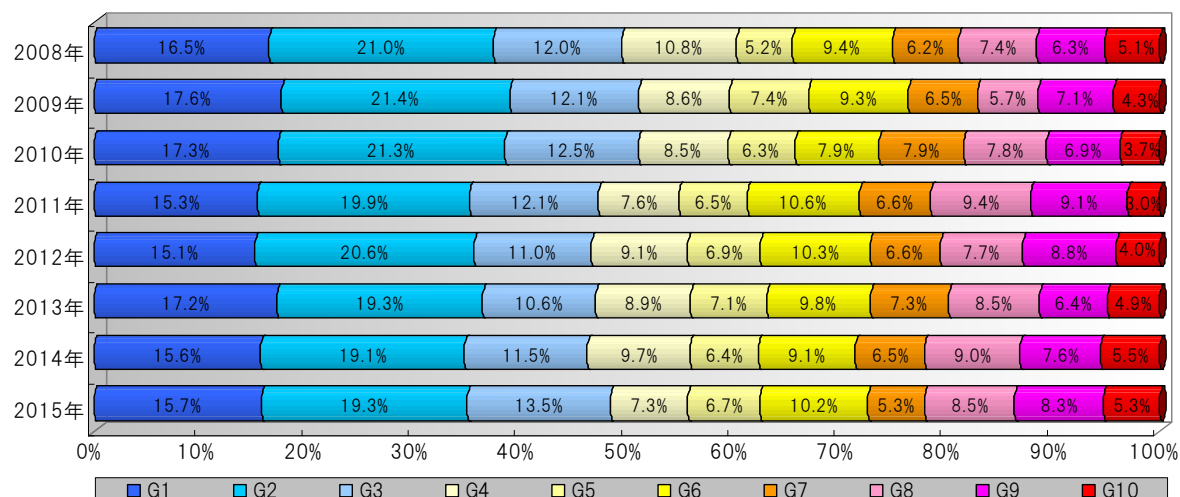


2. 経年比較：倒産予備軍は円滑化法施行前より高い水準に

2015 年 12 月時点で、倒産リスクのかなり高い『G8～G10』ゾーンの割合は、2014 年 12 月算出分 (構成比 22.0%・251 社) より 0.1 ポイント上昇し、1 年前に比べて倒産リスクは微増した。他方、倒産リスクのかなり低い『G1～G3』(同 48.5%・525 社) は 2.2 ポイント上昇した。

次に、円滑化法が施行された 2009 年 12 月時点 (17.0%) に比べると、『G8～G10』の構成比は 5.1 ポイントも高くなった。倒産件数は概ね減少傾向が続いているものの、抜本的な経営改善が進まず、倒産リスクを抱えたままの企業数は増加傾向で推移しているといえる。

■過年度の倒産予測値分布(算出は毎年12月)



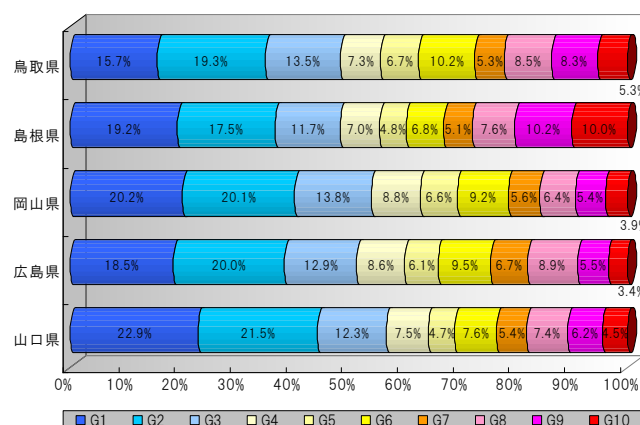
3. 県別：『G8～G10』の割合、中国5県で『鳥取県』は2番目に高く

I：2015 年の県別分析

中国5県における2015年12月時点の倒産予測値グレードを県別にみると、倒産リスクのかなり高い『G8～G10』ゾーンに分布する企業の割合は、『鳥取県』が構成比22.1%（239社）で中国5県では2番目に高かった。最も高かったのは『島根県』で、構成比27.8%（324社）を占めた。次いで、『山口県』が同18.1%（522社）、『広島県』が同17.8%（1167社）で続いた。『岡山県』は同15.7%（741社）で最も低かった。

他方、倒産リスクのかなり低い『G1～G3』ゾーンに分布する企業の割合は、『鳥取県』（525社）は『島根県』（564社）とともに構成比48.5%で、中国5県で最も低かった。最も高かったのは『山口県』で、構成比56.7%（1639社）を占めた。次いで、『岡山県』が同54.0%（2545社）、『広島県』が同51.4%（3371社）が続いた。

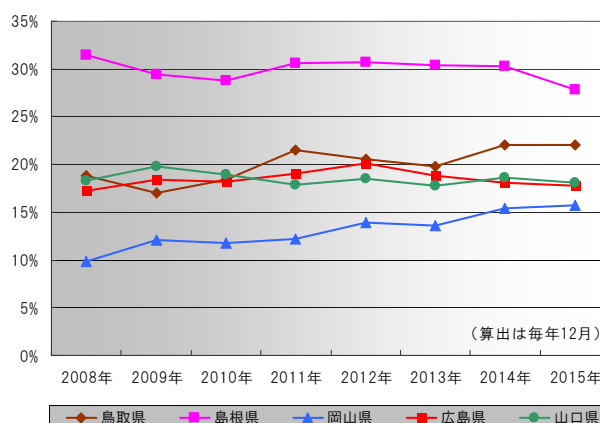
■県別の倒産予測値分布（2015年12月算出）



II：倒産予測値の推移（G8～G10）

2008年以降の『G8～G10』ゾーンに分布する企業の割合を県別にみると、円滑化法が施行された2009年12月末時点と比較して上昇した地域は、『鳥取県』（5.1ポイント増）と『岡山県』（3.6ポイント増）の2県だった。一方、『山口県』（1.7ポイント減）、『島根県』（1.6ポイント減）、『広島県』（0.7ポイント減）は低下した。

■県別 倒産予測値の推移（G8～G10）



まとめ

2015年12月時点における鳥取県に本社を置く企業の倒産予測値グレードをみると、『G8～G10』ゾーンに分布する『倒産予備軍』の構成比は22.1%だった。リーマン・ショック後の2009年12月時点（17.0%）を5.1ポイントも上回り、全国平均（15.6%）より6.5ポイントも高かった。

中国5県でみると、『島根県』に次いで2番目だった。円滑化法が施行されて以降の企業倒産の件数は概ね減少傾向が続いているものの、倒産リスクの高い企業数は減少することなく、高止まりの傾向を示しており、倒産の可能性を内包した企業の動向により注意が必要だろう。

【参考】

帝国データバンクでは、倒産予測値の算出にあたり、3つのモデルを提供しています。

CCRモデルとは・・・

信用調査報告書（CCR）と、帝国データバンク内部の信用情報データなどの定性データによって算出するモデル。
算出企業数は約30万社。

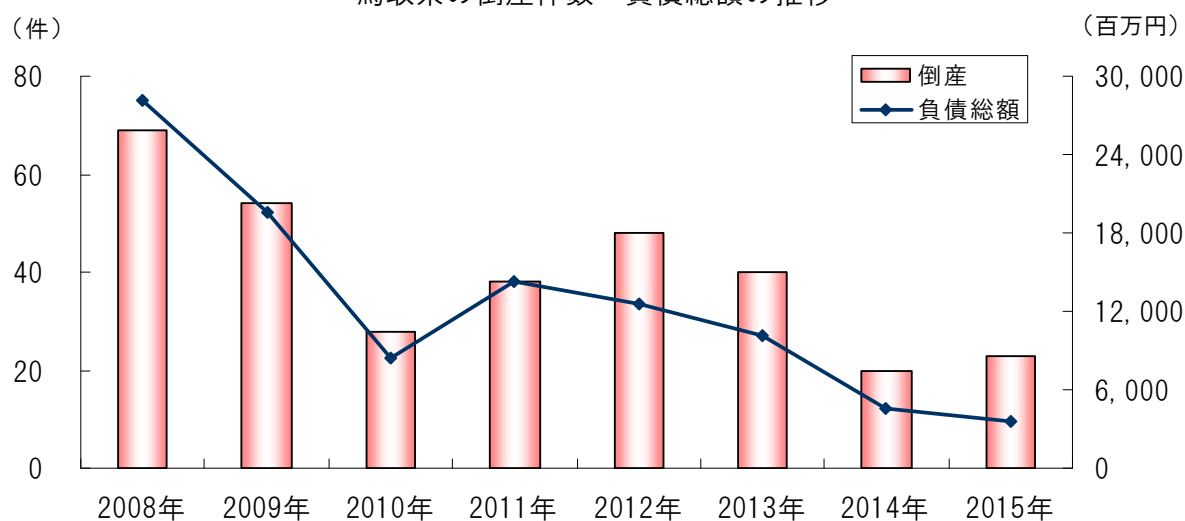
MIXモデルとは・・・

CCRモデルで使用するデータに加え、帝国データバンクが保有する企業財務データベース「COSMOS1」から得られる財務比率を組み合わせる算出するモデル。算出企業数は約12万社。精度重視型。

C2モデルとは・・・

帝国データバンクの企業概要データベース「COSMOS2」の収録データと、帝国データバンク内部の信用情報データなどの定性データにより算出するモデル。算出企業数は約146万社。網羅性重視型。

鳥取県の倒産件数・負債総額の推移



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

【内容に関する問い合わせ先】

(株)帝国データバンク 鳥取支店 担当：城
TEL：0857-23-5231 FAX：0857-27-3073